



2018年度 新入学生アンケート結果のご報告

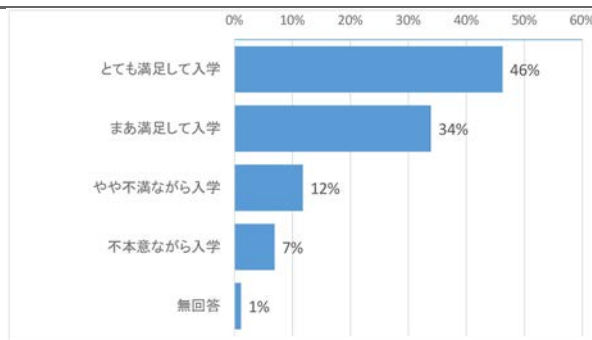
2018年6月のジェネラルレクチャーで行なった、新入生アンケートの集計結果(抜粋)をご報告いたします。

本アンケートは、毎年入学後1ヶ月の段階で、新入学生の皆様のご協力を得て実施しているものです。

大学生活も1ヶ月が経過し、ジェネラルレクチャーも数回経験、課外活動なども活発になり、大学にも慣れてきた頃です。大学としても、いただいたデータを真摯に受け止め、改善を図っていきたくと考えています。アンケートの全項目の集計結果と記述部分は学内各部署に回覧しました。新入生の皆さん、ご協力ありがとうございました。(アンケート回答率 88.4%)

学務事務部入学広報課

【本学入学時の心境】

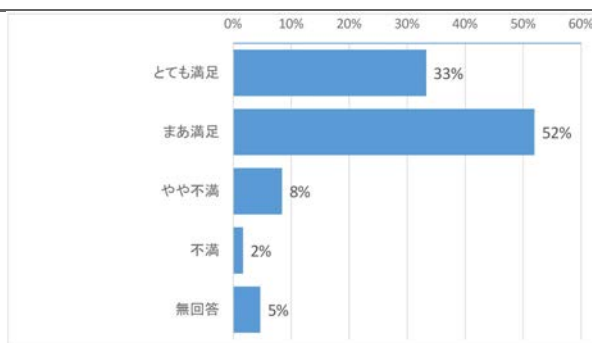


「とても満足して入学」と「まあ満足して入学」の合計(満足度)は80%で、昨年より約5%下がった。

当然ではあるが、「やや不満ながら入学」と「不本意ながら入学」の合計(不満足度)は、昨年より5%上昇。

それでも、本学の入学時点での満足度は、受験産業などの調査による一般的な大学進学者の傾向と比較しても高いものの、不満足度が高まったのは、特に都心の大規模大学の定員超過率の抑制傾向が響き、アドミッションズ・オフィス入試、推薦入学以外の入試で、第2志望以下の志願者・入学者が増加傾向にあるという受験産業などによる予想もあり、それも一因と考えられる。

【入学1ヶ月後(現在)の心境】



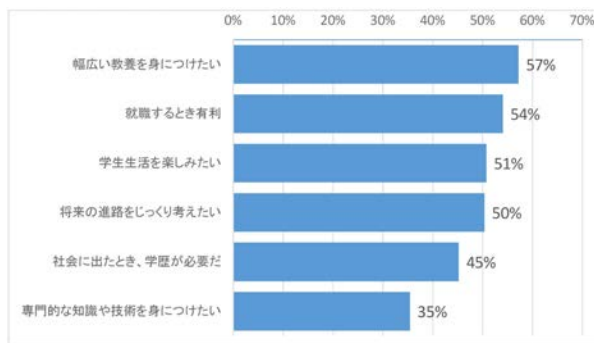
入学直後の「とても満足」「まあ満足」の合計(満足度)が80%だったのに対し、1ヶ月後には85%となり、入学1ヶ月後の満足度は向上。この数年間の平均では88%~89%なので、本年の1ヶ月後の85%という満足度は、例年よりやや低い傾向。

しかしながら、例年より満足度計の上昇(5%UP)は大きく、入学して本学の良さに気付いた学生も例年より多くいるものと考えられる。

入学直後には19%あった否定的な回答、「やや不満ながら入学」と「不本意ながら入学」の合計(不満足度)は、入学1ヶ月後には10%と減少し、8%余り向上。

入学1ヶ月後に向上する傾向は例年通りであり、やや不本意+不本意ながら入学した新入学生の印象が概ね満足に変化している様子がうかがえる。入試種別では、一般(3教科方式)(総合小論文方式)での入学者の満足度が大きく向上する。この傾向も例年通りと言える。

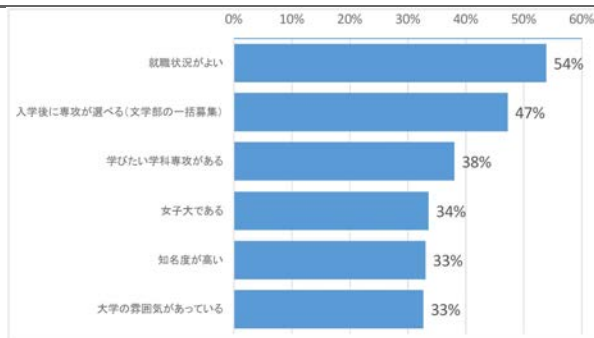
【大学進学の原因】



理由の第1位から第5位までの率は40%以上と高く、第6位も35%と近い。上位の理由「幅広い教養を身につけたい」「就職するとき有利」「将来の進路をじっくり考えたい」は50%超と高いことは例年通り。

「学生生活を楽しまたい」は、近年は30%前後と減少傾向にあったものの、昨年度、本年度は上昇した。将来の進路や就職に関連する項目は継続的に高率で、入学時点から将来を考える層が多いことが分かる。(複数回答。一人当たりの回答理由数は4.3。30%以上の回答を表示)

【本学受験のきっかけ】

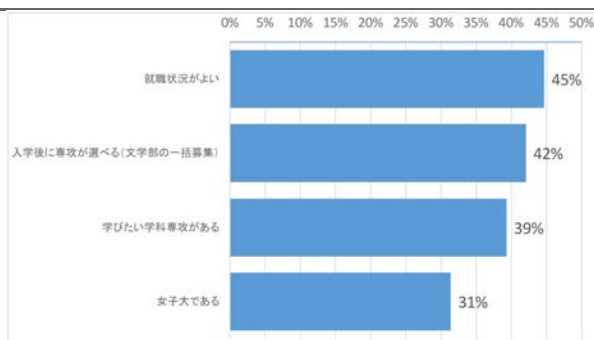


受験大学として本学を選択したきっかけは、30%以上の回答があった項目が6項目、一人当たりの回答個数の平均は6.3項目。本学のことを多岐にわたって検討した上で、受験を考えている様子は変わらないものと思われる。

個別の選択肢としては「就職状況が良い」が第1位なのは変化なし。本学の独特な回答として「入学後に専攻が選べる（文学部の一括募集）」や、受験産業などの調査による受験生の大学選択のきっかけである「学びたい学科専攻がある」をあわせると約85%、やはり学問内容や教育システムが圧倒的な第1位となる。

このことから、本学を良く知った上での受験ということが分かる。(複数回答。一人当たりの回答理由数は6.3。30%以上の回答を表示)

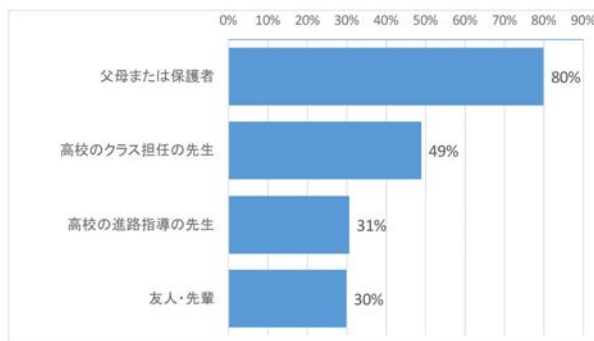
【本学に入学を決めた理由】



一人当たり回答数が5.3項目(2017年5.7項目、2016年6.3項目)と減少(絞られる)傾向にある。30%以上の理由は4項目(2017年5項目)。数年前までは30%以上の項目が7~8項目あったが、徐々に30%以上の項目数が減り、昨年から5項目、本年は4項目となり多少傾向が集中してきている。

【受験のきっかけ】の項と同様「学びたい学科専攻がある」「入学後に専攻が選べる（文学部の一括募集）」という学問内容と教育システムをあわせると圧倒的な第1位(約81%)となるが、単独の項目では「就職状況が良い」という理由が第1位となる。上位となった3項目には、ここ数年変化がないことから、この3つの理由が本学への入学の決め手となっていると考えられる。(複数回答。一人当たりの回答理由数は5.3。30%以上の回答を表示)

【本学に入学を決める際にどなたと相談したか】



「非常に影響あり」と「ある程度影響」の項目の合計で上位を比較。

全般的に変化はなく、「保護者」「クラス担任」「友人・先輩」に相談しているという順は変わらない。保護者の率が圧倒的に高く、受験や入学大学選択の際には、保護者とよく話し合っている様子が窺える。

また、「高校のクラス担任の先生(第2位：49%)」「高校の進路指導担当の先生(第3位：31%)」、「予備校・塾の先生(第7位：21%)と、入学を決定する際には、多くの学生が高校や予備校の先生にも意見を聞いた上で意志を固めているようだ。

(複数回答。30%以上の回答を表示)

意見・感想 自由記述(抜粋)

自由記述で意見・感想も書いてもらった。本年度は記述回答が昨年より少なかった。

ざっくりではあるが、内容は概ね以下の通り分類される。

(一人が複数の面について書いていた場合は、最も強いと読み取れる意見・感想に分類)

- ・ 「オリエンテーション」「授業の履修」「語学」といった履修やシステムの面について
- ・ 「施設・設備」について
- ・ 「大学の雰囲気」について
- ・ 「学生募集や入試」について
- ・ 「その他」

もちろん肯定的な意見を記述してくれた新入生が多かったが、改善点の指摘の意見も少なくなかった。それらも含めて大学への意見・感想等の記述は全て関連部署へ伝えた。